

希望

チューリッヒ日本人学校便り

平成 30 年 2 月 15 日発行

第 36 号

編集発行 鈴木史良

帰国教員の公表と次年度の展望

—— 新年度の学校体制と継続される学校の特徴 ——

2月13日(火)の午後、111教室でおこなわれた保護者会総会の前に校長から平成30年度の学校体制の概要を保護者の皆様にご説明いたしました。派遣教員の異動は帰国3名、新派遣3名となり、派遣教員7名体制が来年度も確保されます。児童生徒が減少している現状では、派遣教員減となるのもやむなしと覚悟していたのですが、このたび3名の派遣が内定し、今年度と同様の体制で臨むことができるようになりました。

今年度末で帰国することが決定した教員は、今年度教頭を務めた清水諭教諭、小学部低学年担任の廣澤恵理教諭、そして校長の鈴木史良です。3名とも2015年4月に赴任し、3年間チューリッヒ日本人学校に勤務させていただきました。帰国後は、清水教諭、廣澤教諭はそれぞれ所属する埼玉県、福岡市の教員として勤務し、海外で培った経験を生かしてくれるものと期待しています。校長の鈴木はシニアとしての派遣で、既に日本で定年退職しており、帰国して教職に復帰することはありません。

来年度教職員及び来年度入学者、編入学者数の確定に伴い、学級編制を以下のように決定いたしました。

小学部 1・2年生	・・・	1 複式学級 (1年生 0名 2年生 4名)
3・4年生	・・・	1 複式学級 (3年生 1名 4年生 1名)
5・6年生	・・・	1 複式学級 (5年生 0名 6年生 3名)
中学部 1～3年生	・・・	1 複式学級 (1年生 0名 2年生 0名 3年生 2名)
		学級数 合計 4 在籍児童生徒数 合計 11名

今年度と同じ学級編制により、教育課程は大きく変わることはありません。3学期制で年間授業日数は今年度より1日増の197日です。ただ、来年度は小学校道德の教科化がスタートし、文科省発表の新学習指導要領の移行期間となるため、小学校高学年の外国語科も始まります。

各授業につきましては、国語、算数などの主要教科は学年ごとのマンツーマンに近い形を継続し、一人ひとりの子どもの力を把握しながら、基礎・基本の習得を徹底させます。そしてその子どもに適した体験活動等から学ぶ指導を心掛け、思考力や判断力、表現力を伸ばすことができるような授業を進めてまいります。実技教科はこれまで通り複式学級単位でおこないます。小学部中・高学年の保健体育につきましては、今年度と同じく2学級合同(3～6年生)で実施させていただきます。

今後も継続する<特色ある教育>

日本を遠く離れたスイスという国において、子どもたちの知・徳・体をはぐくむ本校ならではの特色ある教育の継続、充実を図ります。

○ 知

- ・少人数による効果的な教科指導
- ・一人ひとりの「わかった」「できた」を大切にする授業
- ・毎朝の「読書タイム」と図書館蔵書の充実
- ・全学年による算数/数学「級別トレーニング」の取り組み
- ・小学校1年生からのドイツ語、英語のネイティブ教師による外国語教育
- ・社会科見学、校外学習などによる現地理解教育
- ・スイス現地校との文化交流等で培う国際感覚

○ 徳

- ・「あいさつ」「へんじ」「くつならべ」等の礼儀指導の充実
- ・「相手を思いやる心」の育成
- ・場に応じた「丁寧な言葉づかい」の指導
- ・学年・学部分け隔てのない交流活動
- ・全児童生徒で取り組む感動的な学校行事
- ・人権の意識向上と「いじめ」のない学校
- ・「餅つき」、「かるた/百人一首」、「和太鼓」等での日本伝統文化体験



毎日の清掃できれいな学校

○ 体

- ・スイスの夏山ハイキング宿泊行事
- ・専門コーチに学ぶスキー宿泊行事
- ・市営プールでの水泳実習
- ・補習校との合同運動会の実施
- ・さまざまなスポーツを楽しむ週2回のクラブ活動

○ その他

- ・危機管理体制の充実
- ・年2回の学校評価で教育改善
- ・体験入学制度
- ・外国籍児童生徒も編入学可能（日本の学習指導要領に準拠した教育を長期にわたり受けている場合）

JSマルクトのにぎわい

2月14日(水)～15日(木)に、小学部低学年による生活科の学び「JSマルクト」が開催されました。自分たちがつくったおもちゃで、みんなで楽しく遊ぶことに関心をもつことや、遊びのルールを考えて言葉や掲示物でみんなに伝えられるようにすることがねらいです。ここでの通貨はJSフラン。教室内は、的当てゲーム屋さん、くじ引き折り紙屋さん、ビー玉迷路屋さん、とんとん紙相撲屋さん、教室大迷路屋さんなどで大にぎわい。楽しい遊びの数々に遊びにきた上級生たちも夢中になっていました。



くじをひくときれいな折り紙が当たります